

令和8年度予算案のEBPM「国連人口基金(UNFPA)拠出金(少子化に関する国際調査)」

課題データ

我が国の少子化は、急速に進んでおり、深刻な状況であるが、諸外国の状況を見ると、過去に出生率が反転した国でも、近年は低下傾向にある。一般的に、希望するこどもの数と実際にもつこどもの数についての乖離は、経済や雇用の不確実性や、子育てのコスト、仕事と子育ての両立の難しさ等が挙げられるが、子育てにかかる経済支援等が高い水準でなされている地域においても、出生率の低水準化が見られ、若者の出産意識の変化の可能性があげられる。

事業

国連人口基金(UNFPA)拠出金(少子化に関する国際調査)

令和8年度当初予算案：13百万円

国連人口基金(UNFPA)において、世界的な少子化の背景には、若者の出産意識の変化の可能性を指摘しており、国を超えた研究が必要であるとして、調査を行うところ、我が国においても、近年若者の価値観の多様化は少子化の背景の一つと考えており、今後の我が国の少子化対策の立案にも極めて有用であると考えられることから、拠出金を支出する。

○若者(15~40歳)の出産に関する願望と選択に関する調査

- ・調査対象国：最大80か国を想定。
- ・調査方法：オンライン形式。UNFPAから調査会社への委託により実施。
- ・調査設計、実施、分析、公表：UNFPAの専門家諮問委員会が監督。
- ・調査項目：「出産に対する願望や意向」、「出産の選択に対する障壁と実現要因」、「願望と選択への決定要因」。
- ・結果の公表：イベントや出版物、ソーシャルメディア。
- ・スケジュール：令和7年11月~令和8年6月。(パイロット調査は、すでに実施済み)

※アウトプット、アウトカムの()内は直近の実績値

アウトプット

我が国における調査の実施回数
2026年度 1回

短期 アウトカム

—

中期 アウトカム

—

長期 アウトカム

若者意識及び状況の把握による効果的な政策立案

EBPM指標

目標

こども・若者の権利保障と
その視点の尊重、意見聴取と対話

良好な成育環境の提供

すべてのこども・若者の
健やかな成長の保障

結婚・子育てに関する希望の形成と
その実現を阻む隘路の打破

こども・若者の幸福な生活 / 少子化トレンドを大きく変える / 未来を担う人材の育み